

平成19年2月

# 房安恵美 学位論文審査要旨

主 査 渡 邊 達 生  
副主査 稲 垣 喜 三  
同 中 島 健 二

## 主論文

Increased plasma substance P and CGRP levels, and high ACE activity in migraineurs during headache-free periods

(発作間欠期の片頭痛患者において血漿サブスタンスP、CGRP濃度は増加し、ACE活性は高い)

(著者：房安恵美、古和久典、竹島多賀夫、中曾一裕、中島健二)

平成19年 Pain 掲載予定

## 審査結果の要旨

本研究は発作間欠期片頭痛患者血漿を用いて、SP、CGRP濃度、ACE活性を検討したものである。その結果、健常対照者と比較し、SP、CGRP濃度は前兆のある片頭痛患者、及び前兆のない片頭痛患者において高値であること、ACE濃度は前兆のある片頭痛患者において高値であることが判明した。また、SPとCGRP濃度、SP濃度とACE活性には相関関係がみられることが判明した。本論文の内容は、片頭痛の病態生理における神経ペプチドの関与、及びそれらの様々な相互作用を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。